

## 第14回

- 講演者: 奥田 隆幸 氏 (広島大学)
  - 題目: リーマン対称空間内の強い意味で離散的に交わる鏡映部分多様体の組の分類
  - 日時: 平成27年1月16日 (金) 16:30 – 17:30

コンパクト型エルミート対称空間内の離散的に交わる二つの実形は 対称三対 の言葉を用いて井川 – 田中 – 田崎によって最近分類が行われた. 交わりの離散性は実形の合同類の(片方の)取り方に依存する繊細な概念であることに注意しておく. もう少し大雑把な目線で, コンパクト型リーマン対称空間  $G/K$  の全測地的部分多様体の二つの合同類の組  $([L_1], [L_2])$  を考え, 任意の  $g \in G$  に対して  $gL_1$  と  $gL_2$  が離散的に交わる時  $[L_1]$  と  $[L_2]$  は強い意味で離散的に交わるということにする. コンパクト型エルミート対称空間の実形の二つの合同類についてはこのような強い意味で離散的に交わるようなものは存在しないが, 一般のコンパクト型リーマン対称空間中の鏡映部分多様体の二つの合同類を考えると, 強い意味で離散的に交わるものがある. 本講演では佐武図形を用いてそれらを分類するアルゴリズムを紹介する. 時間が許せば, 強い意味で離散的に交わる全測地的部分多様体の組の発見が, 特定の非コンパクト擬リーマン対称空間上のある種の複雑性を持った不連続群の構成に応用されることについても述べたい.



.lg-outer.lg-pull-caption-up.lg-thumb-open .lg-sub-html {bottom:80px;}

12 images

From:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/> - (旧)理工学部 数学科

Permanent link:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/seminar/2014/014>

Last update: **2017/11/16 18:24**

